

Funehiki High School News vol.106

◆デュアル実習調印式が行われました

4月14日、本校会議室で、本校と田村市、地元事業所の連携人材育成事業である「デュアル実習」の調印式が行われました。式では、田村市の冨塚市長と、実習企業・施設代表として特別養護老人ホーム船引こぶし荘および田村市船引デイサービスセンターの佐川施設長より、温かいご挨拶をいただきました。実習生代表として3年3組の大沼竜也さんが「コミュニケーションを大切に、責任を持ち、高い目標を持って取り組みます」と力強く決意を述べました（写真）。式の最後には、学校法人若草学園認定こども園わかさの牧園長と、2年3組鎌田歩さんの保護者様、本校校長により協定書が無事に締結されました。

今年度のデュアル実習生の人数は2年生14人、3年生20人の計34人です。2年生は毎週火曜日、3年生は毎週木曜日に、各企業・施設にお世話になります。



◆生徒総会・家庭クラブ総会・選手壮行会が開かれました

5月2日、本校体育館で生徒総会が開かれました。生徒会活動・部活動の昨年度の決算報告や、今年度の年間活動計画についての審議が行われ、無事に承認されました（写真左）。その後、家庭クラブ総会が開かれ、家庭クラブの昨年度の活動報告や役員紹介などが行われました。生徒総会と家庭クラブ総会とともに、役員の生徒が議長から司会進行まで全てを担っています。他の生徒たちも熱心に資料に目を通し、報告に耳を傾け、生徒全員が真剣に総会に参加していました。

両総会の終了後、インターハイ地区予選に出場する部活動の選手壮行会が開かれました。それぞれの部



活動の選手がユニフォーム姿でステージに上り、大会に向けての目標や決意を述べました。生徒会長の吉田公幸さんが激励の言葉を贈り、それを受けてソフトボール部長の助川華那さんが感謝の意と抱負を述べました（写真右）。

◆県大会に出場します

野球部が第68回春季東北地区高等学校野球福島県大会の切符を5年ぶりに手にしました。5月13日に県営あづま球場で開会式が行われ、翌14日より試合が始まりました。

また、5月6日から8日までに行われたバドミントン競技インターハイ県中地区予選大会で、本田直也・宗形祥吾ペアと、石川陽菜・遠藤遥奈ペアが、それぞれ県大会出場を勝ち取りました（写真）。県大会は6月4日から、国体記念体育館で行われます。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...school@funehiki-h.fks.ed.jp



北国の陽光

Jenny Becker

ジェニー・ベッカーさん
(アメリカ合衆国
ミネソタ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	36

私の故郷ミネソタ州では、5月から6月まで春がやって来ません。ブリザード（猛吹雪）が吹き荒れる5月や、曇りで、寒く、風の強い6月を、私は過ごしてきました。ミネソタ州はカナダと国境が接していて、冬は北海道よりも寒くなります。最近数年間で私が経験した最低気温の記録は－54℃でした。寒さが和らいで暖くなり、夏が来るまでには、かなりの日数がかかります。

6月に夏がやって来ると、ミネソタ州は素晴らしい場所になります。樹木からみずみずしい芝生まで、すべてが豊かな新緑に変わります。日本とは違って、足を刺すブヨはいません。芝生の上に体を投げ出し、足の指までも芝生の感触を楽しむのです。

特に天気の良い日には、近所の人々が集まり、ブロック・パーティー（街区の交通を遮断して野外で行なう町内の祭り）をします。私の住んでいた通りでは、毎年1回は開かれていました。数カ月間も準備し、町内会としてあらゆる年代の人々が集まって、一緒に食事をしたり、ゲームをしたり、お互いの近況を話し合ったりするのです。

みんなで持ち寄った食べ物を分け合い、誰かが持ってきたグリル（肉などを焼くレンジ台）でハンバーガー、ホットドッグ、ブラットブルスト（豚肉に香辛料や香草を入れて作ったソーセージ）を焼いて食べます。10代の子どもたちは、水風船トス（水の入った風船を投げ合う）や障害物コースなど、たくさんのゲームを準備します。パーティーは毎年違った天気になり、進行中に雨が降ったり陽光が輝いたりする時があります。サンダーストーム（激しい雷雨）の時には、食べ物を誰かの家の車庫に慌てて運び込みました。どしゃ降りの雨が上がった後には、すぐにまた会場に戻り、幼い頃からの友だちと、雨でできた大きな水たまりに飛び込んだりしたものです。

私は日本でも、友達同士でバーベキューをしたり、大きなお祭りを見物したりしました。アメリカでも友達同士でバーベキューをしますが、市全体の規模の大きなお祭りは珍しく、年に1、2回あるかないかです。ブロック・パーティーは、その中間ぐらいの規模と回数の催しだと思います。集まった人たちの中には知り合いもいますし、お互いにまだ知らない人もいます。

日本でお祭りに行った時、私は子どもの頃の大好きな記憶を思い出さずにはいられませんでした。私が英語を教えたことがある生徒たちが、友人、兄弟や両親と一緒に歩いていました。おいしそうな食べ物の匂いがして、着飾った人も普段着の人もいました。人々は何カ月もかけてお祭りの準備をし、街やお祭りの空間を美しく飾りつけたのでしょうか。もちろん、ミネソタ州には浴衣や焼きそばはありませんし、ほとんどのブロック・パーティーではあまり飾りつけをしません。しかし、そういった違いはあっても、バーベキュー、お祭り、街路催事、ブロック・パーティーの根底にある考え方は同じではないでしょうか。それは、お祝いによって地域社会を一つにしてくれるということです。私はそれが大好きです。それらのお祝いは、長い冬の間待ちわびていた懐かしい北国の陽光へと私を連れて行ってくれます。

でも、今年は長い冬が終わるのをそんなに待つ必要がありません。私が慣れている今までの冬に比べて、今年はすぐに夏がやって来でしょう。なぜなら、暖かい季節のお祝いがすでに楽しそうに始まっているのですから。

